

## すべての上にあるキリスト

1:24 ですから、私は、あなたがたのために受ける苦しみを喜びとしています。そして、キリストのからだのために、私の身をもって、キリストの苦しみの欠けたところを満たしているのです。キリストのからだとは、教会のことです。1:25 私は、あなたがたのために神からゆだねられた務めに従って、教会に仕える者となりました。神のことばを余すところなく伝えるためです。1:26 これは、多くの世代にわたって隠されていて、いま神の聖徒たちに現された奥義なのです。1:27 神は聖徒たちに、この奥義が異邦人の間にあってどのように栄光に富んだものであるかを、知らせたいと思われたのです。この奥義とは、あなたがたの中におられるキリスト、栄光の望みのことです。1:28 私たちは、このキリストを宣べ伝え、知恵を尽くして、あらゆる人を戒め、あらゆる人を教えています。それは、すべての人を、キリストにある成人として立たせるためです。

あなたの英雄は誰ですか？人生を形づくる手助けをしてくれた人は誰でしょう？ベン・マックファザー、クリス・ヴィンソン、ジョシュ・レイクと言った人たちは皆さんの聞いたことのない人たちですが、私の人生を深く形づくってくれました。同じように、使徒パウロは異邦人に福音が宣べ伝えられるために必須の見本でした。時にその手紙の中でパウロは、自身の働きへの召しについて語っています。パウロがその話をするとき、あまりの大々的な言い方に居心地の悪さを感じることもあるかもしれません。けれども、パウロが意図する内容からそれて意味をとらえるべきではありません。今朝の聖句でもパウロは、教会がイエスをもっとはっきりと見るための見本として自分を引き合いに出しています。パウロの人生の優先事項は単純です：キリストを知らせること。どのような環境であっても、パウロは十字架にかけられて復活された救い主、イエスを宣べ伝えようとしました。それがコロサイの手紙 1:24-28 のテーマです。パウロはキリストがすべての上にあると宣言しています。

今朝この聖句について考えるにあたり、キリストがすべての上にあると分かった時こそ、私たちが霊的に成長し、主を知る時であると理解しましょう。24 節には、パウロの苦しみはコロサイ人たちのためのだからからこそ、苦しみにあっても喜んでいる、とあります。彼が意味するところを、コロサイ教会に限らず異邦人の教会にも適用することができるのではないのでしょうか。パウロの言葉が他の部分でも適用可能なのは明白です。パウロの苦しみは教会にとって重要でした。では、どのように、なぜ彼の苦しみが重要なのでしょうか？

パウロは福音のために苦しみを受けてました。神のキリストとしてのイエスを知らせるためのパ

ウロの誠実な証から来る苦しみです。パウロはローマでの監禁生活を意味しているのかもしれませんが、今までの働きの旅路において経験したすべての苦しみや試練を意味している場合もあります。どちらにしても、パウロのあらゆる苦しみは愚かな罪の結果ではありませんでした。パウロは鞭打たれ、牢獄に入れられ、船は難破し、空腹にも直面しました。自分の民族の仲間から拒絶されました。これらすべては、彼がイエスを通して神からくる恵みのメッセージを説いたためでした。使徒パウロによると、彼の苦しみは自分のものではありませんでした。自分自身のために苦しんだのでもありません。それはキリストの苦しみ、キリストが教会のために死なれたその苦しみでした。

24 節をもう一度見てみると、「私は、あなたがたのために受ける苦しみを喜びとしています。そして、キリストのからだのために、私の身をもって、キリストの苦しみの欠けたところを満たしているのです。キリストのからだとは、教会のことです。」とあります。コロサイ人の手紙の解説でジョン・カルヴァンは、英語でよく「and (そして)」と訳される部分は、この場合「for (～だから)」と訳されるべきだと述べています。この接続詞が使われるのは、パウロが自分の苦難を喜んでいるのは、この苦しみがキリストご自身の苦しみだからです。彼はキリストの代わりに教会のために苦しんでいるのです。ややこしいことに、この節の「キリストの苦しみ」という部分は、イメージ通りの意味では使われていません。キリストの苦しみと言うと、通常私たちは人々に救いをもたらしたキリストの十字架上の死を連想します。けれどもパウロは救いにつながったキリストの苦しみを意図していたのではないとわかります。20-22 節でパウロはキリストの働きは完全だと述べているからです。キリストは「その十字架の血によって平和をつくり、御子によって万物を、御子のために和解させてくださった(20 節)」。「今は神は、御子の肉のからだにおいて、しかもその死によって、あなたがたをご自分と和解させてくださいました。それはあなたがたを、聖く、傷なく、非難されるところのない者として御前に立たせてくださるためでした。(22 節)」キリストの救いの働きは終わっています。完了したのです。

ヘブル 10:12 にはこうあります。「10:12 しかし、キリストは、罪のために一つの永遠のいけにえをささげて後、神の右の座に着き、」

コロサイ 1:24 で、パウロは福音のための自分の苦しみと、福音が国々に宣べ伝えられる中でのキリストの働きとを関連付けています。パウロが言っていることを理解する助けとなる教理が 2 つあります。一つ目は、キリストとの結合の教理です。新約聖書はこの考え方に様々な形で触れています。「キリストにあって造られた (エペソ 2:10)」「キリストとともに十字架につけられた (ガラテヤ 2:20)」「キリストとともに生きる (ローマ 6:8)」等。もっと多くありますが、キリストとの結合の考え方がどれほど重要か示すにはこれで十分でしょう。コロサイ 1:18 でパウロは、教会はキリストのからだであると言っています。ですから、パウ

ロがキリストのために教会の代わりに苦しんでいると言ってもおかしいと思うことはないのです。パウロは自分がキリストと結ばれているとわかっていました。彼はキリストによって福音を伝える者とされました。次の節で説明される彼の働きは、教会のためのものだったのです。その働きの一つは、福音によって生き抜くことです。イエスは、世がイエスを憎むなら、世は弟子たちをも憎むと言われました。パウロは十字架の力と恥の生きる証なのです。彼の人生はイエスによって完全に換えられたと同時に、それは彼が自分の十字架を負っていかなければならないことも意味していました。

もう一つ、24 節にあるパウロの要点を理解するための重要な教理は召命の教理です。召命とは、働きという意味の古い言葉ですが、もっと正確に表現するならば、使命、天職です。マルティン・ルターはこの召命について多く語っています。彼の時代には、聖職者のみが神に奉仕する道だと考えられていました。一方でルターは、その人の召しは何であれ、すべてのことを主に対して行うという召しを与えられているのだと述べました。言い換えれば、パウロがキリストの苦しみの欠けたところを満たしていると言っているのは、教会のために苦しむことで教会に仕えるために召されたという意味です。

パウロが教会のためにキリストに代わって苦しみを受けていることを見てきましたが、ではそれがどのように教会を助けるのでしょうか？それが教会のためになったことはピリピ 1:12 から分かります。パウロはこう述べています。

ピリピ 1:12 「さて、兄弟たち。私の身に起こったことが、かえって福音を前進させることになったのを知ってもらいたいと思います。」

その後を見てみると、パウロが牢に入れられたことで、より多くの人たちが福音を説き、より多くの人々が福音を耳にしているとパウロは続けています。これは明らかに喜びの要因となっています。教会も、パウロの揺るぎない信仰によって強められているのです。信仰から離れる人が出てしまうときは非常に悲しいものですが、誠実なクリスチャン生活を送る人を目にするとき、その証から私たちは力を得ます。キリストのために苦しんでもキリストを拒絶することを拒む人たちに会った時は尚更です。

パウロの場合は、ただ苦しむだけで何もしなかったのではありません。彼はただ受け身で迫害を受けていたのではないのです。彼は神のことばをあますことなく伝えるために（25 節）神からの召しを受け取りました。彼の宣教と苦しみがなぜ関係あるのかと考える必要もありません。それらすべてが彼の働きの基礎を形づくっているのです。キリストのために苦しむたびに、そのメッセージはより多くの聴衆を得ることになります。パウロの苦しみのメッセージから励ましを受け取った教会も、福音を宣べ伝えるのです。ですから神をあますところなく伝えることがパウロの働きの主要部分なのです。

神のことばをあますところなく伝えるには何をしなければならぬでしょうか？不可能なタスクのようにも思えます。聖書には多くのことが書かれています。それを全て一人の人が説明するなどできるでしょうか？もしもこの「神のことば」というのを新旧約聖書の 66 の書ととらえれば不可能でしょう。パウロの時代でも、人生のキャリアを旧約聖書研究のために費やす人もいました。聖書学者にとっては旧約聖書の一部の研究だけでも一生かけるくらいのものでしたのです。

神からのものである御言葉は深いものです。この「神のことば」という表現を聖書、ととらえてしまえば、広すぎる解釈になってしまいます。26 節でパウロは、今世に知らしめているものは多くの世代に渡って隠されてきたもので、いま神の聖徒たちに示されたと言っています。

パウロが宣べ伝えるよう召されたのは、聖書全体を世に知らせることではありません。もちろん良い働きをするためには聖書に関して多くの説明をする必要があったでしょう。しかし神がパウロに任せたその召しは「キリストにある救いを異邦人に知らせること」でした。

ここでパウロが言おうとしていることにまともや混乱するかもしれません。27 節には「神は聖徒たちに、この奥義が異邦人の間であってどのように栄光に富んだものであるかを、知らせたいと思われたのです。この奥義とは、あなたがたの中におられるキリスト、栄光の望みのことです。」とあります。

隠されていたが今や現わされたメッセージの最も重要な部分はどこでしょうか？異邦人が含まれるということでしょうか？または、福音とはキリストと結ばれることであるということでしょうか？この節だけを見ると、両方の解釈ができるかもしれませんが、前後関係を広く見てみるとパウロが話していることは主イエスのことであると言えます。28 節を見るとそれが明確です。パウロは「私たちはキリストを宣べ伝え…」と言っており、またコロサイ 2:1-2 では「2:1 あなたがたとラオデキヤの人たちと、そのほか直接私の顔を見たことのない人たちのためにも、私がどんなに苦闘しているか、知ってほしいと思います。2:2 それは、この人たちが心に励ましを受け、愛によって結び合わされ、理解をもって豊かな全き確信に達し、神の奥義であるキリストを真に知るようになるためです。」と言っています。

使徒パウロは私たちの救い主であるイエスという方とその働きについて強調しました。パウロはイエスが誰で、その死と復活から何を成し遂げられたのかを明確に教えることでキリストを告げ知らせようとしていました。新約聖書のパウロの手紙のいたるところで見ることができ、コロサイの手紙第一でも既にそれを見てきました。パウロがこれを非常に重要視していることを理解し難いと感じるべきではありません。永遠の御子は創造主であり、贖い主です。イエスは私たちが移される御国の王である方です。彼こそが私たちがいのちと死のうちに持つ

希望です。

働きへの召しについてのパウロが言っていること、つまり苦しみの役目と彼の説くメッセージが重要です。それは、この 2 つがコロサイ教会の直面していた問題に対してパウロが物申す権力を持つようにさせたものであり、また手紙を読む者たちにイエスに目を向けるよう励ますものであったからです。イエスは彼らの「栄光の望み」であり、神との平安であり、彼らの創造主であり、王であられるのです。24-27 節を見ると、今やパウロは特に異邦人に対して福音を現わすための神の聖職者としての資格を確立したのです、28 節から、パウロはなぜこの手紙を書いているのか理由を述べています。今日は 28 節までしか学びませんが、この節は来たるものの要約としてよい役目を果たしています。

コロサイ「1:28 私たちは、このキリストを宣べ伝え、知恵を尽くして、あらゆる人を戒め、あらゆる人を教えています。それは、すべての人を、キリストにある成人として立たせるためです。」

パウロは何を宣べ伝えているのでしょうか？永遠の御子が万物の創造主であり、イスラエルと世が長らく待ち望んだ贖い主であるということです。御子は罪人と聖い御父との間にあるものを正してください。御子は私たちを導き、その御霊によって私たちを聖化されます。私たちはキリストにとどまり、キリストは私たちのうちにとどまってください。御霊が信仰の実、希望、愛を实らせてくださいます。28 節でパウロはキリストを宣べ伝えることは 2 つのことを含むと言っています。1 つ目は人々に警告することです。コロサイの手紙が書かれたのは、パウロが偽りの教えの危険性について警告したかったからでした。偽りの教えはクリスチャンをキリストから引き離し、あらゆる議論を引き起こします。28 節の警告を未信者も含めたすべての人に対して適用するのが無難でしょう。新約聖書には来たる裁きについての警告がいくつかあります。機会があればその警告について分かち合うこともためらってはいけません。

キリストを宣べ伝えることに伴うことの 2 つ目は教えることです。イエスご自身も弟子たちに、自らが教えたすべてのことを教えるように命じられました。キリストを宣べ伝えることの 1 つはイエスについて教えることですが、またそれがどういう意味なのか分かりやすい教えの中で示してくことです。特に聖書を教える場合はそうでしょう。自分の人生が変えられた経験の数々を人に伝えるのも素晴らしいです。そうすることで福音のメッセージをより身近に感じるからです。けれども、私たちの神についての信念をどこから得ているのか、聖書からそれを示せなければなりません。

キリストを宣べ伝えることには警告と教えが含まれますが、それはすべて「あらゆる知恵」を持って行われなければなりません。宣べ伝え、警告し、教えつつも、メッセージから逸れて何

も役に立たない場合もあります。パウロの働きと教会の働きは知恵によって特色づけられるものでした。聖書的に言うと、知恵は神を恐れることに根付いています。神を恐れるとは、神がどのような方なのかを知り、神を正しく敬うことです。神に服従し、神の命令に従います。神を愛し、礼拝します。神を恐れることは宗教的なことを守る以上のことです。例えば誰かがあなたを傷つけたとしたら、自然な反応として仕返しがあるでしょう。聖書的な知恵は、完全なる義で裁かれる神に復讐を委ねるよう教えています。もう一つの例は仕事とお金です。仕事とお金は重要ですが、知恵とは、仕事とお金を正しく評価することを知ることです。お金は非常に重要だからといって何をしてでも手に入れるのでしょうか？働きすぎの根底にあるものは何でしょうか？聖書はこういったことについて神の視点から述べています。同じように、私たちがイエスを宣べ伝えるために知恵を必要とします。

宣べ伝えることの終着点はただキリストを知らせるではありません。そこで知恵が重要になるのです。福音に対して人がどのように反応するのか悩む必要はないというのは事実です。救いの働きは神に属しており、私たちのものではないからです。私たちに人は救えません。けれども、クリスチャンとしてキリストについて教え、警告するということが私たちの担う役割です。その教えと警告の目標は、裁いたり非難したりすることではありません。それも神のなさることです。私たちは人生において、教会において霊的に成熟することを熱望しています。あなたは神を知っていますか？神と歩んでいますか？神を礼拝していますか？教会はあなたや他の人に福音を説いていますか？教会は本当の宗教を実践していますか（ヤコブ 1:27）？教会は聖書に、そしてあなたの信仰告白に誠実でしょうか？

霊的成長についても一つあります。霊的成熟とは、おもに御霊によって歩むことです。ですから霊的成熟は普通の人間の成熟とは異なります。年齢や時間が自動的に成熟と繋がるわけではありません。霊的成熟はその実を現わすに十分なほど御霊と近しく共に歩むことです。霊的に成熟した人は、教理を知り、聖書に誠実であるものです。同様に、霊的に成熟した人は愛に、平安に、忍耐に、やさしさにあふれます。霊的に成熟した人は自制のある人でなければなりません。傲慢な態度は霊的に成熟した人の特徴ではありません。これらのことをお話しするのは、皆さんが今新しい牧師を探している過程にあることと、教会員の中からリーダーを選出することもあるからです。見た目ですごそうな人を選ぶのではなく、霊的成熟を示す人をリーダーとして選びましょう。

## 結論

パウロの働きの主なる目標は、十字架につけられ、復活された救い主を世に知らせることでした。福音のために苦しんだとしても彼は気に留めませんでした。それは、自分の苦しみによって福音のメッセージが神の民にとってより明確になると知っていたからです。自分のメッセージに妥協せず、神と人を和解させるために世にこられた神の永遠の御子であるイエスをより一

層証しました。その中で彼の目標は明確でした：福音の知らせが完全に宣べ伝えられ、神の民がそれを耳にし、受け取ること。現わされた神の御言葉を民が受け取る時、彼らは霊的に成熟するのです。彼らの信仰が打ち立てられ、人生が変えられます。そしてこの世のものではなく神のものに価値を見出すようになります。今まで彼らが人生で優先してきた宗教的な行いも、三位一体の神に栄光をお捧げすることへと移行します。今までの宗教的慣習は神の御言葉を聞き、歌い、祈り、教会の儀式に参加していくことへと切り替わるのです。自分自身を生きるいけにえとしてみるようになります。使徒パウロの目標は明確でした。イエスの目標はご自身の福音における弟子たちと同じであったことでしょう。もしも新約聖書の時代の弟子たちの目標が霊的成熟だったのであれば、私たちの時代にとっても同じだと言えます。

私たちの課題はと言えば、キリストの主権を私たちの日々の生活にどのように適用するか方法を見出すことです。この世のすべての上にキリストがおられるということはどういう意味でしょうか？キリストがすべての上にあるということではどのように人生のすべてが変わるのでしょうか？誰かの人生の外面を見るのが難しい一方で、キリストがどれほど私たちの人生の内面を変えてくださるのかが見ることができます。キリストがすべての上にあるというその主権を見る時、私たちが世を見る目が変わります。例えば、キリストのすべてにおける支配について知っていれば、不義や不公平が私たちに苦々しくさせることはありません。誰も、すべてのものが最後には主に従わなければなりません。ですから私たちが受けた傷は私たちがキリストの再臨を待ち望む気持ちをかきたてるのです。もう一つ例を挙げるなら、キリストのからだの部分であるということは、クリスチャンとして私たちが直面する苦しみのすべてはキリストの苦しみであるということです。私たちはキリストのからだの部分だからです。キリストが苦しむ時私たちはその一部分であり、キリストは私たちと共に苦しまれるのです。もしも私たちが自分の仲間に拒絶される時、彼らが拒絶しているのは実はキリストなのです。キリストはまた私たちの気持ちをご存知です。ご自身も自分の民から拒絶されたからです。私たちが成功してしようと拒絶されていてしようと、キリストが私たちの目的です。周囲の人を喜ばせようとするものではありません。私たちの主を真似、主のように生きることを追求するのです。隣人を愛し、主の御心を行おうと求めながら。